

めざせ世界遺産登録 あなたも参加団体で活動しませんか？

地域の歴史再発見と世界遺産運動

玉縄城址まちづくり会議

玉縄城は、1512年に伊勢宗瑞（北条早雲）が、玉縄のくみどりの龍脈>の中心に築いた城で、関東の三名城と謳われました。地元の玉縄城址まちづくり会議では、平成24年秋の「玉縄城築城500年祭」を進めています。昨年11月22日には、かつて玉縄城があった清泉女学院の講堂で、推進協議会も共催し、その実行委員会の発会式を開催しました。

また、鎌倉市との協働事業として、『玉縄歴史アカデミア』『玉縄民俗資料館リニューアル』『玉縄学習センター郷土資料コーナー企画展示』など玉縄の歴史再発見の活動を行い、鶴岡八幡宮の改修など荒廃した鎌倉のために、小田原北条氏をはじめ玉縄城主やその家臣達が力を尽くしたことなども紹介しています。

さらに、「世界遺産登録推進活動は、鎌倉の各々の地域にある多彩な有形無形の文化財を守り伝える活動と一体のものでなければならぬ」という観点から、推進協議会に参加し、『あなたの足元の文化財を守り伝えていくために』というテーマで鎌倉五地域の方々との意見交換会を提案・実施中です。

まちづくり会議の荒井章さんは、「世界遺産登録推進活動を名実ともにオール鎌倉の市民の活動にして行きましよう」と熱心に語ってくれました。



会員の手作り 玉縄城大手門模型

古都鎌倉の文化的意義を世界へ

NPO 法人鎌倉シチズンネット (KCN)



平成13年より、全国規模でパソコン普及のために国が予算を立てパソコン講座

を各市町村で実施しました。鎌倉市では、補助講師のための市民ボランティアを募集し、応募したメンバーを中心に同年6月にNPO法人鎌倉シチズンネット（KCN）が設立されました。

活動の主体は、市のパソコン講座や市民発信情報のホームページ作成運営受託など鎌倉市への支援活動や、自主講座運営などですが、プログラム構築を伴う市との協働事業（例：不用品交換システム）のほか、会員への技術支援なども実施しています。

会員は、パソコン講座講師・補助講師のほかに、サーバー管理やシステムプログラム開発、ビデオ製作、パソコンメンテナンスなど高度の技能を持った人たちもいるそうです。

理事長の鍋島さんは、「この度は推進協議会のホームページの改良にあたって、広く鎌倉の歴史と文化および遺産登録の意義を知ってもらおうという趣旨のもと、KCNの知識やスタッフを最大限活用してご協力できればと考えています」と抱負を語ってくれました。

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第13回 和賀江嶋はどんなところ？

和賀江嶋は、鎌倉市材木座海岸から逗子市小坪海岸にかけて所在する、当時から現存する最古の築港遺跡です。鎌倉の政治的な重要性が増すにつれ、鎌倉を中心とした海上交通が発展していききました。しかし、大風や波浪による破損や転覆が多く、更には海岸が遠浅で荷の揚げおろしには不便でした。そのため、勧進僧の往阿弥陀仏が船着場の必要性を幕府に訴えたところ、執権北条泰時がこれに応え、貞永元年（一二三二）、和賀江嶋は築造されました。『東関紀行』によれば、仁治三年（一二四二）頃、和賀江嶋は三浦の三崎と並んで著名な港湾であったとあります。また、建長五年（一二五三）鎌倉幕府は和賀江で商売を行うことを許可し、和賀江嶋付近は鎌倉で最も賑やかな商業区域の一つとなりました。貞和五年（一一三四）、足利尊氏は極楽寺が和賀江を支配することを認め、和賀江には関が設けられ、極楽寺は関米を徴収して、和賀江嶋の修築・維持管理を行っていました。江戸時代に入ってから、鶴岡八幡宮の修理の際に島も修築され、近世まで利用され続けました。現在でも和賀江嶋の形状は概ねよく残されています。このように、和賀江嶋は鎌倉の海上交通と物流の拠点となり、中世都市鎌倉の発展に大きな役割を果たした、重要な遺跡であるといえます。

News! the 世界遺産

鎌倉ケーブルテレビ特集番組

JCN 鎌倉（鎌倉ケーブルテレビ）では、鎌倉の世界遺産登録の近況をお知らせすることを目的に、市政情報番組「鎌倉市からのお知らせ」の中で、「武家の古都・鎌倉 ～世界遺産登録に向けて～」と題した特集コーナーを、9月19日から11月13日までの間に計8回にわたり放送しました。

各回の概要は次のとおりです。

○第1回「候補資産の保全に向けて」

世界遺産登録への準備を進める中で、候補資産の史跡指定や保存管理計画の策定などが行われました。鎌倉の歴史的遺産を保存し、次世代へとつなげていくための環境整備が進展しました。

○第2回「国際会議の開催」

鎌倉の世界遺産登録に向けて、2回の国際会議で貴重な議論が重ねられました。この成果を活かし、国と共にユネスコへ提出する推薦書の作成に取組みます（詳細は本会報第11号と第13号を参照）。

○第3回「鎌倉の世界遺産登録とは」

鎌倉は、世界でも稀な武家文化の成立と発展、そしてそれを支えた最初の武家政権の様子を伝える唯一の地として、世界遺産登録をめざしています。

○第4回「国への推薦要請と今後について」

今回の推薦要請は、地元自治体で進めてきた今まで

の準備作業から、国との協働で最終的な推薦書を仕上げていく段階へステップアップする重要な契機となりました（詳細は本号1Pを参照）。

○第5回「鎌倉世界遺産登録推進協議会とは①」

世界遺産登録は市民とともに進めていくものであり、登録の意義を多くの人に理解していただくため、市民と行政が一体となって設立された会です。世界遺産登録をめざして、さまざまな取組みが進められています。

○第6回「鎌倉世界遺産登録推進協議会とは②」

推進協議会では事業ごとに実行委員会が置かれ、鎌倉まつりへの参加、会報やマップの発行、フォーラムやワークショップ、連続講座の実施、美術・写真展の開催など、さまざまな活動を広く展開しています。

○第7回「鎌倉世界遺産登録推進広報コーナー」

市民や観光客の方々が気軽に立ち寄れ、鎌倉の世界遺産登録の意義や目的、内容などについて、映像や遺物展示などでより理解を深めていただきます。鎌倉生涯学習センター1階に設けられました。

○第8回「鎌倉を守り伝えるために」

鎌倉の貴重な歴史的遺産を世界の宝として後世に伝えていくために、21世紀を担う子ども達が、文化財保護ポスターや世界遺産をテーマとする作文コンクール、史跡の整備などのような活動に参加しています。

文化財保護ポスターコンクール

後世を担う子どもたちに、神奈川県文化財への関心を高めてもらうことを目的に、県内の中学生を対象として文化財保護をテーマにしたポスター展が、神奈川県教育委員会と鎌倉市、そして神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の主催により、今年も開催されました。

「世界遺産登録をめざす 武家の古都・鎌倉」部門では大西若葉さん（鎌倉市立第一中学校2年）の作品が最優秀賞に輝きました。大西さんからは「最優秀賞をとれるとは思わなかったのうれしいです。源頼朝は鎌倉の文化を開いた人なので、日本の伝統と技術を伝えられると思います。題材にしました」とのコメントをいただきました。

最優秀賞の大西さんの作品はポスターとなり、来年の11月頃まで県内の公共施設や社寺などに掲示されます。

文化財保護ポスター展は来年も開催される予定です。中学生の皆さんの豊かな発想で、ユニークな作品がたくさん応募されるといいですね。

☆こちらのポスターをお店等に掲示していただける場合は無料でお配りします。推進協議会事務局（鎌倉市世界遺産登録推進担当）までご連絡ください。

